

日時 令和7年3月6日(木)

午後7～9時

場所 松本市役所3階 第1応接室

～ 議事概要 ～

■会議事項

1 パブリックコメント等の結果報告

- テーマ4「市民の暮らしを支える森を守る」に関連し、森林整備による水源かん養や土砂災害防止の公益的機能を追加記載する。
- 「温暖化」と「気候変動」の用語の使い分けについては、松本市の関係部局の意見も踏まえながら再度検討する。

2 ビジョン実現に向けた推進体制

- 推進体制図内の「連携会議」の位置付けが不明確であるため、市と市民団体の関係をよりシンプルにし、「連携会議」を松本市の公式な会議として位置付ける形で修正する。
- 新しい団体は松本市が強力にサポートし、単なる事務的な支援だけでなく、積極的に一緒に運営していく必要がある。また、森林環境課だけでなく他の関係部局も巻き込みながら総合的に推進することも検討する。
- 市民が森林施策に関わるためのプラットフォームづくりが重要であり、市民からの要望に応える形で活動を広げるべきである。最初は小規模な活動から始め、徐々に広げていくことが現実的と考えられる。

3 今後のスケジュール

- 3月18日の庁議でビジョンの策定が報告され、その後、4月中に建設環境委員協議会で報告される予定。パブリックコメントの結果はホームページで公表し、中学生・小学生には概要版を配布する予定。
- 市長にビジョンを手渡す式典を行わない場合は、ビジョンや新団体の設立に関する広報が不十分になる懸念があり、式典の代わりに新団体の発足を広報するための別イベントを開催することも検討した方がよい。広報は夏や秋になってしまうと遅いため、開催するのであれば春が良い。
- 完成したビジョンや資料は公文書として松本市立図書館などに保管し、長期的に保存したほうがよい。

## 議事録要約

### 1 開会

(市)

委員の皆様が揃ったため、令和6年度第6回目の運営委員会を開催させていただく。今回がビジョン作成の方もいよいよ大詰めということになるかと思う。委員長の方から一言お願いしたい。

(三木委員長)

おそらく今回が最後の運営委員会になるかと思う。3年間掛けてビジョンを作成し、パブリックコメントも終わってようやく完成の形になろうとしている。今回はその締めくくりということをお願いしたい。

今回の会議事項は主に二つである。1つ目はパブリックコメントや環境審議会等からご意見を頂いて、原案のビジョンをどういうふうに修正したかということと、2つ目は来年度以降どのような体制でこのビジョンの実現に向けて動き出していくのかということになる。ではまず、1つ目の森林長期ビジョン（案）に対する意見ということで、事務局から紹介いただければと思う。

### 2 会議事項

#### (1) パブリックコメント等の結果報告

(市)

※別紙1～4の説明

(三木委員長)

市民の関心も高いようである。今説明のあった内容について、何か意見等はあるか。

(小山委員)

別紙4のNo.2とNo.3については、47ページからのテーマ4「市民の暮らしを支える森を守る」に絡んでくると思われる。ここで土壌保全や水源かん養について謳われていないということが気になった意見だと思われる。元を正せば脱ダム宣言からの流れを汲んでいるように感じるが、脱ダム宣言の時に盛んに土壌保全が大事だというふうに社会に謳った経緯があるので、それがずっと尾を引いている可能性がある。それを踏まえると、テーマ4の「(1) 市民の暮らしに危険を及ぼす災害の防止対策の実施」の項目で、文章の最後に、森林整備による公益的機能として水源かん養や土砂災害防止のことを記載してはどうだろうか。

(三木委員長)

具体的にはどういう文章になるか。

(小山委員)

「公益的機能の維持管理として、水源かん養、土砂災害防止等の保全を進めます。また、治山

事業による…」といった文章になるかと思われる。

(三木委員長)

小山委員から提案のあった文章で修正いただければと思う。私が少し気になったのは、「温暖化」を「気候変動」と言った方が正しい場合もあるのだが、別に「地球温暖化」という現象自体をぼやかして表現する必要もない。例えば別紙1(パブリックコメントにおける意見等の概要及び市の考え方)の10について、修正したうちのP15、17、22に関しては、「気候変動対策」とか「温暖化防止」という言葉を使った方が良いのではないだろうか。

(小山委員)

P22については市民の生の声なので、むしろそのまま「温暖化」という表現にしておいた方が良いのではないだろうか。

(三木委員長)

松本市の関係部局の意見を踏まえ再検討いただきたい。他にご意見はないか。

(小山委員)

別紙4(松本市環境審議会における意見等の概要及び市の考え方)のNo.7については、「趣旨同一の意見」ではなく「参考とする意見」に変更してはどうだろうか。この意見からは企業に資金を提供してもらって保全する地域を設定するように読み取れる。そういった具体的な地域をつくるということはこのビジョンの中では謳われていないため、「将来的にはそういった視点も踏まえて実行していく」といった参考意見として扱った方が、意見を頂いた方への回答になるのではないかと思う。

(三木委員長)

前回の会議から新しくなった点として、コラムを完成させてもらったという点がある。どのような形になったのかご説明願いたい。

(市)

※コラムについて説明

(三木委員長)

「コラム3:森林に入るときの服装や心得」では、止山に入る際の注意点についても触れていただければと思う。パブコメ等については、概ね別紙にあるような形で回答いただければと思う。

(2) ビジョン実現に向けた推進体制について

(三木委員長)

それでは1つ目の項目はひとまず以上として、次に「(2) ビジョン実現に向けた推進体制について」を説明願いたい。

(市)

※別紙 5 説明

(三木委員長)

来年度以降の推進体制がきちんと決まったということで、ビジョンの実現に向けて活動していければ良いと思う。またこの委員会以外の方々も、加わってくださる方々はこれまで市内で活動された実績も多いため、非常に頼もしいと感じている。大田委員、渡辺委員は共同代表ということで、何か付け加えておくことなどはあるか。

(渡辺委員)

2つあって1つ目は別紙5に「共同代表者（代表・副代表）」とあるが、二人とも共同代表者で、代表と副代表を分けた覚えはないので訂正願いたい。もう1つはビジョンの61ページにある推進体制についてである。この体制はたぶん最初のこの会議の中で、こんな感じはいかがでしょうかという案が今まで残ってしまった部分もあって、本当にこの図の体制のとおりに行っていくのか、これで最終版で良いのか、今後新しい団体を運営していく上でとても不安になる。連絡会議とか松本市の今後の関わり方とか、これで最終版ということで良いのだろうか。

(小山委員)

この推進体制の図の中でうまくイメージできないのが「連携会議」の位置付けである。現状ではこの連携会議は宙に浮いた状態のような気がする。市民団体が一生懸命やることを市が下から支援するという形の方が良いのではないか。要するに「連携会議」の部分消してしまって、大きくは「市民・市民団体」と「松本市」の2段階構えにした方がすっきりすると思われる。

(三木委員長)

このP61の図は、今から実態に合わせて修正可能か。

(香山委員)

この図だけ見ると、何か「連携会議」という松本市とも市民・市民団体とも違う組織が存在するように受け取れる。

(三木委員長)

イメージとしては、「連携会議」とか「松本市（森林環境課・関係部局）」とあるものを全部一括りにして「松本市」という形にすれば良いのではないか。

(環境アセスメントセンター)

イメージとしては、この「連携会議」は定期的に松本市の公式な打合せの場として設定した。松本市策定のビジョンである以上、そのための打合せは市民が勝手に行うものではなく、やはり松本市が公式に実施するのが妥当と思われる。

(小山委員)

実際に動き始めていく中で、共同代表となっていていただくお二人が変に縛られるような形にならないよう配慮した方が良いでしょう。

(大田副委員長)

団体を推進させていく際には、企画の段階である程度知識があり現場を知っている方々の意見を頂きながら活動計画を立てていきたいと考えているので、この場にいる皆さんにもぜひご協力いただけるとありがたい。

(小山委員)

メインスタッフではないが、サポートしていく関わり方はあるのではないかと考えている。また、良い人材がいれば紹介していくようなこともできるだろう。

(香山委員)

こういう市民団体はいきなり形が出来上がるのではなくて、段々と成長していく性質のものだと思う。この市民団体は松本市の森林長期ビジョンを作っていく中で出来上がってきたということ踏まえると、やはり松本市が事務局としてどれだけ本気でサポートしてこの団体を育成していくのかという点は結構重要だと思う。そういう点でいうと、一般的に市民が自主的に集まって運営している市民団体とはやはりかなり違うもので、松本市が策定したビジョンから生まれた団体なので、松本市としては単なる事務局ではなく、伴走するというような意識を持って動いていただくという体制にしてほしい。当然、森林環境課が所管するのだと思うが、そのやり方として「予算があってこういう事業をやります」といった事務的な手伝いということではなくて、一緒になって運営していくというぐらいの感覚をぜひ持っていただきたい。森林環境課で担当になる方は、常に一緒になって「腹を決めてやるぞ」という感じでやっていただかないと、立ち行かないのではないだろうか。自らの意志で集まって活動するローカルな団体であればやりやすいのだが、松本市という枠組みの中で運営していくということになると、実際に運営する人達は大変である。松本市から色々な人達が集まってくれば良いが、そうでもなかったりすると、本当に少ないメンバーで松本市を背負っていかなければならないような感じになってしまうのはどうしても避けたい。しかも、このビジョンを10年後に見直すということを考慮すると、その10年間活動していくのに共同代表の2人がすごく負担になってしまうので、やはりこのビジョンは松本市の政策なので、団体が早く自立することばかりを促すのではなく、育てていくという形でないと難しいと思う。また、森林環境課だけが所管するのも大変だと思うので、市長直属ぐらいのつもりでサポートしていくというような体制も考えてほしい。そういうふうにしていかないと、結局市民団体としてポンと外に投げられてしまえば、段々辛いことになってしまう危険がある。充当される予算を消化することが負担になるような事態になるなら本当に大変である。市全体としてうまく取り組もうということで、市長に直接声をかけていただいて、なるべく市長に近いところで総合戦略的な視点から支えていくという運営の仕方ができないだろうか。また、私も5年間やってきて、最初の年は文書作りが大変だった。

皆さんに原稿を書いてもらって、それを取りまとめるのが私の役割で、その時の森林環境課の課長さんと2人で本当にすごく長い時間をかけて文書を作成した。こういうやり方には限界があって、反省点もあり、きちんと議論していないのに私が勝手に文章を書きってしまった箇所もあった。2年目は少数精鋭で取り組んで、そんなに文書作成は大変ではなかった。この3年間で非常に助かったのは、やはり専門家としてサポート頂いた方々がいたことは大きい。ただ、新しい団体の方々にはフルタイムで動ける人もいないので、市民に対して発信していかなければならない場面で、例えば SNS への発信だってそれだけでも大変なことである。それをどういうふうにやっていくのか、そのサポート体制も森林環境課の事務局だけではなく本当はもう少し専門的な視点で継続的にサポートできるようなスタッフが入っていただけたらいいのかなというふうにも思う。これから先3年ぐらいの中できちんと継続的にこのビジョンが動いていく、それを市民がきちんと見える形にしていくという手立てを工夫していただきたいと思う。

(三木委員長)

テーマごとに取組みのトーンは異なってくる。例えば、33ページの「テーマ1：市民と森林がふれあう機会をつくる」の「(1) ふれあえる里山の森を増やす」は、該当する取組みを今は実施していないため、これからまだまだ充実させなければいけないということになる。一方、松枯れ対策に関しては今までずっと続けてきており、現状でも頑張っているのだから、このまま着実に推進していきましょうということになる。

(三木委員長)

少なからず予算を付けてやるからには、「松本市は全国でも面白いことやってるよな」という取組みにしていかなければならない。ビジョンに書いて終わりでは全く意味がない。色々な市町村で森林に関わって取り組んでいるわけであるが、松本市は松本市なりに地域の特色にあった森林への関わり方の仕組みを作ったなというふうにしていかなければならない。特にあまり森林・林業に関わりのない市民も含めて活動の中核を担っていくというのがこれからのあり方だと思う。もちろんプロの人たちも周りからサポートしていただく体制が必要かと思う。

(渡辺委員)

この3年間の運営委員会の前に、私もその前の会議から参加させていただいていた。香山委員からもお伝えいただいた通り、その時は総合戦略室の方に加わっていた。新たな推進団体の名称についても、市長から「森林」をキーワードとして含めて欲しいという要望があったが、たぶん市長も政策の部分で森林について動かしていきたいという思いからこういうご意見をいただいたのかなと思うので、総合戦略室の方々とか、森林だけではなく子供政策や環境政策のこととも関わり合いながら、もう少し広い範囲での活動として取り組んでいけたら良いと思う。森林環境課だけでは活動範囲に制限が掛かってしまうと思うので、もう少し広い枠組みで活動してければと思う。

(三木委員長)

森林の問題は色々な分野に関わっていて、それは街作りでもあるし、子育て環境でもあるし、

ゼロカーボンのようなことでもあるし、そういったものと結び合わせて取り組んでいかなければいけないというのは当然のことで、松本市にもそれができるような仕組みを工夫していただくということが絶対必要だと思う。松本市は結構色々なイベントをやっている、ゼロカーボンに関してもずっとやっているが、森林に関する取組みと結び付いていないのはもったいないことである。ただ、今回新しく作られた団体がゼロカーボンのことをプラスして取り組んでもあまり意味がないと思っていて、これまで周りでやってきたことを森林という軸を通して繋げるような役割が、新しい団体には求められるのではないかと思う。そのためには色々な情報を聞きつけて集めてくるという作業が必要になってくるが、それを全部新団体の方々に任せるには無理があるため、そこは松本市がサポートいただきたい。

(小山委員)

渡辺委員や大田副委員長が気にされているのは、要するに松本市の部局連携の部分ではないだろうか。松本市の方でどのようにお考えいただくか、腹の括り方の問題かと聞いていて感じた。先般、林業総合センターで行ったイベントは本来子供家庭課の事業で、我々とすれば部局連携の面白い取組みになるのかなと思っていたが、残念ながら子供家庭課が完全に森林環境雑課に下駄を投げられたと感じた。それではたぶん駄目で、どうにか森林環境課から子供家庭課に協力をお願いすることはできなかったのだろうか。

(市)

先日行ったイベントは時間的にも急遽だったということもあり、子供家庭課の方でも色々手配してもらったものの、森林環境課の方で主に動いてしまったという事情がある。今後は子供家庭課の方でも森林教育などにも関わってもらえると思っているし、観光面では色々な事業を森林の中で行っている。そういった取組みに新団体が加わっていただくということも可能だと思っている。森林環境課と連携し各部局とも協力しながら進めていく必要があると思っている。基本的に予算については団体を支援するということで、負担金という扱いをさせてもらった。今までこの運営委員会では、イベント等は市の予算として市が行ったわけであるが、それだと色々な制約があって自由な動きがなかなか取れないという部分も多かった。そういう点を踏まえると、新団体には負担金として市が支援をして、その負担金の活用方法については新団体の中で自由に決めていただけることになる。また、当然委員の皆様方にも絡んでいただきながら、それぞれの専門分野の立場で関わっていただくということをお願いしたい。

(環境アセスメントセンター)

このビジョンを作っていく中で大事だと思ったのは、市民が森林に関する施策などに関われるプラットフォーム作りという点である。具体的には、市民が地域の森をどうしていきたいのかを訴えることができたり、地域の森林に触れ合えたりできる場を創出するという点である。アンケートやイベントを実施する中で、市民の希望は国や県が行っている森林政策とは異なるともっと身近で素朴な内容で、森林所有者の切実な思いや普通の市民からの「もっと山に入りたい、使ってみよう」といった要望が印象的だった。行政と市民のギャップを縮めていく場所を作っていくというのが新団体の大きな役割の1つだと考えているが、市民から相談を受

けた際に新団体のスタッフだけで対応するのは難しいため、恐らく外部の専門家や有識者も巻き込みながら活動していく体制が必要なのだろう。はじめは小規模な活動からでも良いのでそこから徐々に広げていく流れの方が無理がないだろう。ビジョンの中にもテーマは1~5まで掲げてあり、その中から何か無理なく始められそうなものから1個でも2個でも良いのでスタートしてみるというイメージを持っている。推進体制の図の中にある4つのワーキンググループをいきなり立ち上げるのは現実的に難しいため、まずは取組みやすい分野でのワーキンググループを1つでも立ち上げて、そこからスタートしネットワークを広げ構築していくのが堅実かと思う。先ほど香山委員も言われていたように、単なる市民団体が1つできたわけではなくて、松本市公認のオフィシャルな市民団体ができたという点で考えると、市が開催する連携会議を年に1回など定期的で開催するという事は、ビジョンにも明記しておいた方が実効性を伴うと思われる。

### (3) 今後のスケジュール

(三木委員長)

今後の日程について聞きたい。このビジョンがいつ確定となるのか、いつ公表するのか、またどうやって市長に渡すのかなど、事務局の方から説明願いたい。

(市)

ビジョンはパブリックコメント等の意見を反映させた内容で、3月18日に行われる庁議にて策定の報告をさせていただく。次に、4月中に行われる建設環境委員協議会に策定の報告をさせていただく。また、パブリックコメントの結果はホームページの方で公表させていただく。また次世代に向けてもこのビジョンを周知するという意味で、中学生と小学生に概要版を配布したいと考えている。

次に市長へビジョン渡す式典についてご説明させていただく。このビジョン策定にあたっては、まず庁議に諮って意見を頂き、そこで出た意見を踏まえ修正し、さらに議会にも諮って修正している。また、パブコメの手続きも踏んでこのビジョンが出来上がってきたという状況である。そういった流れの中で市長にも2回ほど説明し、このビジョンの内容については市長もある程度理解している。我々も完成したビジョンを市長に渡す式典を行った方が良いと考えていたが、内部で協議する中で、市長もビジョンの内容については分かっているのだから、そういった式典は行わなくてもいいのではないかという方向性になった。とはいえ、委員の方々の意見もお聞きしたいところではある。

(三木委員長)

市長に渡すことに重要性はそれほどなく、このビジョンを実現していくために新団体が出来上がって活動していくことを広報することが重要と考えるが、その点はどのように考えているのか。仮に市長へビジョンを渡す式典がなくても良いが、その式典がないとすると、ビジョンが誰にも知られずにひっそりとホームページに載って、新団体もこっそり作ったという形になってしまう。



(香山委員)

一番シンプルなのは、市長にビジョンを手渡す式典をやると、報道が来て市民にただで知らせてくれる。それを独自の企画として行うとかなり大変である。ビジョンができたということを発表するイベントを別立てで企画するというような形になる。式典を行ってマスコミに記事を書いてもらう方が余程簡単だと思う。

(市)

マスコミの方でも、議会への取材などを介してビジョンの内容はだいたい知っているという状況で、改めて周知するという段階にない。検討はしたいと思うが、式典ができるかどうかこの場ではっきりとしたことは言えない状況である。

(小山委員)

ビジョンができたことをプレスするために市長を呼び出すのは非常に難しいという状況はよく分かった。そうであれば、新組織のメンバーに、ここにいる委員やこれから一緒に活動してくれそうな方々を加えた形で、キックオフのようなイベントを仕込むというのはどうだろうか。ただその場合には、そのための準備をしなければならないので若干大変ではあるが、そういった形は難しいだろうか。

(市)

内部での協議の経緯を説明すると、我々は最終的にビジョンが完成した段階で市長に渡せば良いというふうに考えていたが、式典を行うのであれば、議会やパブコメなどで協議する前のタイミングだったのだろうという話になった。その時点で市長にビジョンを手渡す式典を行った上でパブコメを実施して、さらに市民の意見を聞く流れがベストだったのだろうという話になった。そうすると、今の時点ではすでにパブコメも議会報告も終わった後ということになるため、改めて式典を行う意味が見いだせないということになった。とはいえ、委員の方々の意見も聞きながら、今後どうするか考えていかなければならないと思っている。先ほど意見のあった新組織のお披露目のタイミングでも良いのではないかとも思う。

(三木委員長)

ビジョン実現のため新団体が活動を始めるという周知は、是非とも何かの機会を設けてほしい。新団体が自ら広報するというのは、立ち上がったばかりでその力もない。周知のタイミングが夏とか秋になってしまうとさすがに遅いので、できれば春のうちに行っていただきたい。あとは、前から言っていたことではあるが、完成したビジョンと資料編は、きちんと後の人が参照できるように公文書の保管という形で松本市立図書館などにきちんと納め、永年保管していただきたい。市のホームページは何年かに1回全部書き換わってしまいどんどん情報が消えてしまうため、やはり紙媒体としてきちんと残す形をとっていただきたい。

(香山委員)

現段階で冊子として印刷するという方法はあるのか。

(市)

そのための予算が取れていないというのが現状である。PDF データなどで保管するほか、ホットキス止めしたものを各所に配って保管していただくということを考えている。

(香山委員)

各所というのは具体的には？

(市)

概要版は中学校や小学校のほか、35ある各地区のセンターにも置いて見ていただくことを想定している。図書館に置いていただくのも可能だと思う。

(市)

これをもってこの運営委員会を終了させて頂きたいと思うが、私の方から一言お礼を申し上げたい。令和4年度から3年間、このビジョン策定に向けて委員の皆様にはご協力いただき、アンケートやイベント、フォーラム、聞き取り調査を実施していく中で、1000人以上の方々からご意見を聞き、それらを集約してビジョンが策定できた。未来に向けてどういう形で進んでいくかという方向性が固まったのではないかと考えている。それから環境アセスメントセンターには、短期間の中で構成や様々なアドバイスや援助等ご尽力をいただき、感謝申し上げます。今後はこのビジョン達成に向けて新しい組織で進めていくことになり、新しいメンバーを中心に組み進んでいきたいと考えている。その中で委員長には専門家として関わっていただけるということで了承を頂いており、この委員の皆様におかれましても、それぞれの専門的な立場の中で、ご自身の経験や知見を共有・提供して頂きながら取組みの推進に向けて関わっていただけるとありがたいと考えているため、よろしく願いしたい。簡単ではあるが最後のあいさつとさせていただきます。これをもってこの運営委員会を終了とさせていただきます。